

## スーパー連携大学院プログラム履修要覧

### 1. 教育目的

スーパー連携大学院プログラムは、スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員である大学、企業及び行政機関がそれぞれの特色を活かして、産学官連携による教育の質を保証したカリキュラムの実施とキャリアパスの確立、所属組織の異なる複数の教員による共同研究ベースの学位研究指導を行うことによって、グローバル化社会においてリーダーシップを発揮し、広く産業界や行政にわたってイノベーションによる価値の創造を担うことができる「志」の高い博士人材を育成することを目的としている。

### 2. アドミッション・ポリシー

スーパー連携大学院では、産業界や行政の広い分野でイノベーションの担い手として活躍する志を持ち、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を広く国内外から受け入れる。

[求める学生像]

1. ベンチャー精神旺盛で自立を目指す人
2. 実社会のさまざまな分野で創造的能力を発揮し活躍したい人
3. 専門分野への深い造詣の上にマネジメント力を兼ね備えたい人
4. 未来指向の先見性と革新性を身につけたい人
5. 質の高いコミュニケーション力を発揮したい人
6. リーダーとして尊敬される深い教養を備えたい人
7. 国際的感覚を備え、世界で活躍したい人

### 3. 学修・教育目標

学修・教育目標として下記の A～Hを設定し、これらの学修・教育目標の達成のために修得すべき知識と能力を明確にした、テーラーメイドの多様な科目群を配置している。学修・教育目標と科目群・科目類・科目との関係を表1に示す。

- A. <志> “志”教育により、旺盛なベンチャー精神を養うと共に、専門家としての高い志と自立性を涵養する。
- B. <基礎・専門知識> 質の保証された教養基礎教育およびそれぞれの分野の専門教育により、応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、専門的造詣を深める。
- C. <実践力・マネジメント力> PBL(Project-Based Learning)、インターンシップ、海外研修、共同研究型サーティフィケート研究などによりプロジェクトや研究開発の遂行に必要な専門的実践力を身につけ、それと併せて教養教育により技術管理や技術と社会の関係を学ぶことによって専門家としてのマネジメント能力を身につける。
- D. <創造性> 応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、プロジェクト等の実践的能力を身につけた上で、先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究を遂行することにより、実社会のさまざまな分野で発揮し活躍しうる創造的課題解決能力を身につける。
- E. <先見性・革新性> “志”教育、教養教育および先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究により、未来指向の先見性と革新性を身につける。
- F. <コミュニケーション力> プロジェクト実践教育により、日本語および外国語による論理的文章力をはじめ、ディベート力、プレゼンテーション力、チームワーク力など、総合的に質の高いコミュニケーション能力を身につける。
- G. <倫理・教養> 教養教育および自己啓発により、リーダーとして尊敬される倫理観と深い教養を身につける。
- H. <国際性> 海外研修、国際会議参加、留学生との交流、英語による授業などを通して、世界で活躍できる国際的感覚と国際的視野を身につける。

表1 学修・教育目標と科目の関係

科目群・科目類・科目		学修・教育目標							
		A 志	B 基礎・ 専門知識	C 実践力・ マネジメント力	D 創造性	E 先見性・ 革新性	F コミュニケーション力	G 倫理・ 教養	H 国際性
“志”教育科目群		◎		○	○	◎		○	
教養科目群	教養基礎科目類	○	◎	◎	○	○	○	◎	
	教養応用科目類	○		◎		◎	○	◎	○
プロジェクト 実践科目群	PBL			○	◎		◎		
	インターンシップ（短期，長期）			○	○		◎		
	海外研修			○	○		◎	○	◎
地域学科目群			○			○		◎	
専門科目群	専門基礎科目類		◎		○				
	専門展開科目類		◎		○				
	専門特論科目類		◎		○				
研究プロポーザル									
共同研究型サーティフィケート研究				○	◎	◎	○		

◎：対応，○：関連，○：一部関連

#### 4. 教育プログラム

##### 4-1 スーパー連携大学院プログラムとは

スーパー連携大学院プログラムは、広く実社会でイノベーションを担う志の高い博士人材育成プログラムであり、スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員大学の大学院博士前期課程の入学者の中から希望する学生を募って、プログラム受講生とする。従って、スーパー連携大学院プログラム受講生は、同時に各大学の大学院研究科・専攻の所属学生であり、学年も同一であるものとする。

スーパー連携大学院プログラムは、博士前期課程（標準2年）と博士後期課程（標準3年）を一貫する標準5年間のプログラムである。ただし、博士後期課程への進級時にはスーパー連携大学院プログラム博士前期課程の科目修得の修了要件と共に、博士後期課程で行う共同研究型サーティフィケート研究のプロポーザル（研究課題提案と研究計画）の審査に合格した受講生が博士後期課程への進級を認められる。

スーパー連携大学院では、博士前期課程の修了要件を満たした学生に対して「イノベーション博士候補（Innovative PhD Candidate）サーティフィケート」を授与する。また、博士後期課程の修了要件を満たし、共同研究型サーティフィケート研究の成果論文の審査に合格した受講生に対して「イノベーション博士（Innovative PhD）サーティフィケート」を授与する。

なお、本教育プログラムは標準年限を大学院博士課程の5年間とするが、博士前期課程（修士課程）の2年間で修了する場合にも、受講することができる。

また、博士後期課程に進学せず、博士前期課程で修了する受講生で、イノベーション博士候補サーティフィケート取得者と同等のレベルであると評価された者に、イノベーション修士サーティフィケートを授与する。

#### 4-2 スーパー連携大学院プログラムと所属大学院との関係

スーパー連携大学院プログラム受講生は、所属大学院研究科・専攻の教育科目を履修すると共に、スーパー連携大学院プログラムが提供する教育科目を履修する必要がある。

スーパー連携大学院プログラムの修了条件と所属研究科・専攻の修了条件は、専門科目群については共通する部分が多いが、それに加えてスーパー連携大学院プログラムでは「志」教育科目群、「教養科目群」、「プロジェクト実践型科目群」、「共同研究型サーティフィケート研究」、「地域学科目群」などの修得を条件としている。一方、現状では多くの大学で大学院博士前期課程の修了条件として課している修士論文研究は、スーパー連携大学院プログラムでは修了条件としていない。

これらの関係を、5年間の教育プログラムの年次計画として図1に示す。

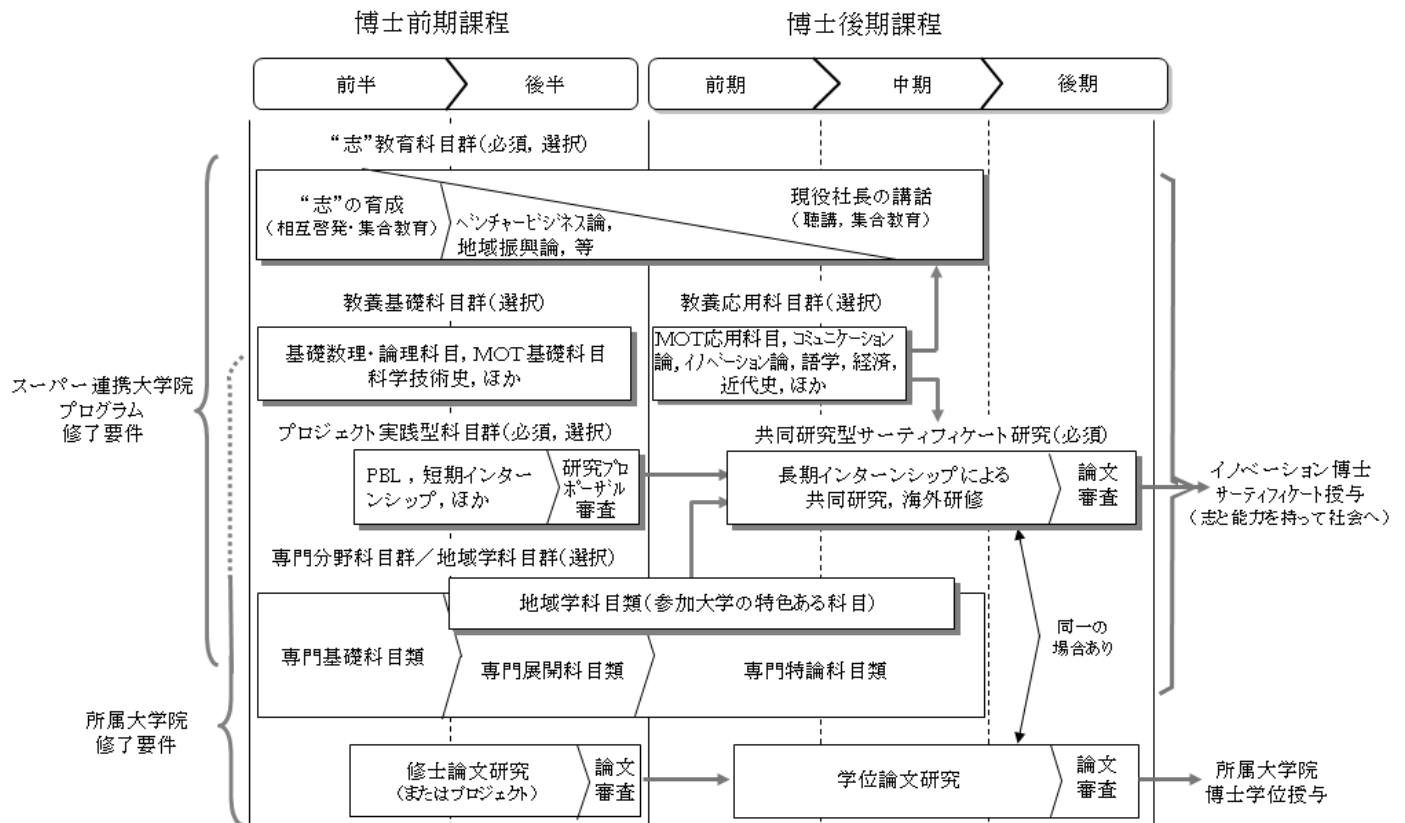


図1 年次計画

#### 4-3 教育方法

- スーパー連携大学院コンソーシアム参加大学の認定科目によるカリキュラムによって、イノベーション博士候補サーティフィケート、イノベーション博士サーティフィケートの授与に必要な条件ならびに自大学大学院学位授与の条件の双方に必要な教育が行われる。
- 単位互換科目は、eラーニングシステムでの遠隔受講を可能とする。  
eラーニングとして、自習形式、受動的講義形式、全員参加型講義形式などのシステムを用意する。
- 実験等を行うことが必要な科目については、集合授業への参加を必要とする(eラーニングシステムでの遠隔講義受講では単位取得が出来ない)。
- 講義では討論の時間が設けられ、対話型の授業が進められるので積極的に発言することが求められる。
- スーパー連携大学院プログラムでは、対面での受講あるいはライブでの講義を必須とする。

#### 4-4 評価方法

##### (1) 演習・課題・レポート

- 毎回あるいは単元毎に出される課題をそれぞれ定められた提出期限までに提出する。合格は、60点以上とする。

## (2) 試験

- 筆記試験(定期・最終筆記試験)を行い60点以上を合格点とする。あるいは、複数の筆記試験と最終レポートを組み合わせで評価し、60点以上を合格とする。
- 試験問題と解答例をインターネット等で外部に開示する。また、実際の解答とその評価も同様の方法で開示する。

## (3) 評価

- 評価はS(100~90点), A(89~80点), B(79~70点), C(69~60点)として記載する。

## (4) 成績指標値(GPA)の算出

- 成績指標値の算出は以下の方法によって行う。

- ① 評価点は, S=4, A=3, B=2, C=1
- ② 取得点の計算は, 当該科目で得た 評価点×単位数。
- ③ 算出は,  $GPA = (\text{取得点の合計}) / (\text{取得した科目の単位数の合計})$

## 5. 共同研究の実施方法

スーパー連携大学院が行う共同研究は, 大学, 企業等からの複数の教員, 研究者, 受講生によるプロジェクト研究を基本とする。その実施方法の概念図を図2に示す。

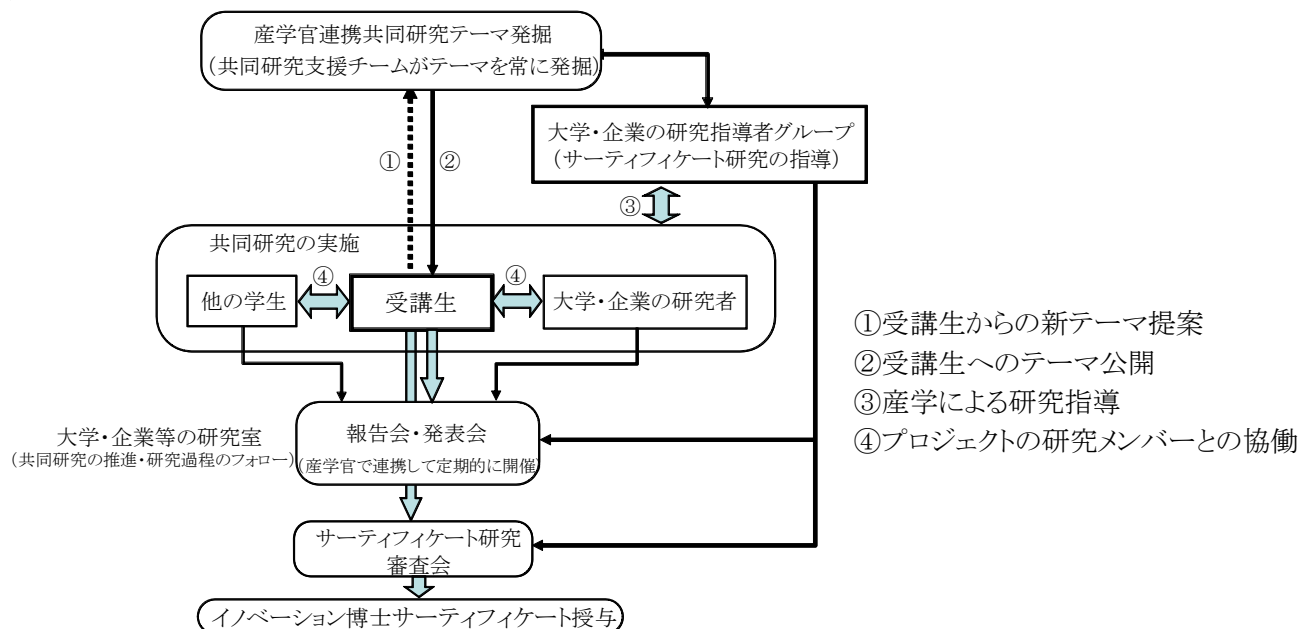


図2 共同研究等の連携体制とサーティフィケート研究の概念図

共同研究のテーマとしては, 概略以下の3タイプが想定される。

### ○タイプA: 大規模プロジェクト共同研究(ドリームテーマ)

- 夢のある大規模プロジェクトであり, プロジェクト実現に必要な数多くの要素となるテーマについてそれぞれ共同研究を行うもの。
- 関係者による研究会を立ち上げて, テーマの探索, 共同研究テーマの設定などを行い, 設定されたそれぞれの共同研究に受講生が参加する。

### ○タイプB: 既契約共同研究テーマ

- 個々の企業と教員が既に共同研究を実施中のテーマであり, そこへ受講生が参加する。

### ○タイプC: 潜在共同研究テーマ

- 企業が将来に望むテーマであり, 企業からの提案に対して教員, 受講生が参加する。
- 受講生が新たなテーマを発案・提案した場合には, その発案・提案に対して関心を持つ企業を募り新たな共同研究としてスタートさせる。

## 6. プログラム履修規程

### 6-1 科目群(科目類・科目を含む)の履修要件

各科目群の履修は原則として以下のように行う。

- (1) “志”教育科目:博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (2) 教養基礎科目:博士前期課程の期間に履修する。
- (3) 専門基礎科目:博士前期課程の期間に履修する。
- (4) 専門展開科目:博士前期課程の期間に履修する。
- (5) 地域学科目:博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (6) プロジェクト実践科目:博士前期課程の期間に履修する。なお、短期インターンシップは、所属大学院の規程に従って行う。
- (7) 研究プロポーザル:博士後期課程で行う研究課題提案と研究計画を提出し、審査に合格する。
- (8) 修士論文研究(またはプロジェクト):所属大学院の規定に従って行う(スーパー連携大学院のプログラムの履修要件とはしていない)。
- (9) 教養応用科目:博士後期課程の期間に履修する。
- (10) 専門特論科目:博士後期課程の期間に履修する。
- (11) 海外研修:博士後期課程の期間に履修する。
- (12) 共同研究型サーティフィケート研究:博士後期課程の期間に、長期インターンシップによる企業等との共同研究(プロジェクト研究:大学と企業で構成される研究グループが行う研究)へ参加して行う。共同研究で行った研究成果を博士学位論文に相当するサーティフィケート研究論文としてまとめる。サーティフィケート研究論文は、スーパー連携大学院コンソーシアムが設置する審査委員会において審査される。
- (13) 学位論文研究:所属大学院の規程に従って行う。場合によっては共同研究型サーティフィケート研究と同一となる。

### 6-2 科目群(科目類・科目を含む)の履修方法

- (1) 各科目群の履修は、下記の手続きを必要とする。
  - ・所属大学院に設置されている科目は、所属大学院の手続きに従い履修登録を行う。
  - ・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、特別聴講学生として履修登録を行う。
- (2) 各科目群の履修は、原則として下記の方法で行う。
  - ・所属大学院に設置されている科目は、通常の対面受講を行う。
  - ・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、e-ラーニングによるライブ受講を行う。
  - ・同時間帯の講義の受講は認めない。ただし、以下の3条件を満たす場合、講義毎にスーパー連携大学院プログラムのオンデマンド講義での重複受講を認める場合がある。
    - ①他の講義とスーパー連携大学院プログラムの講義が重なる。
    - ②スーパー連携大学院プログラムの講義をライブで受講できない明確な理由がある。
    - ③スーパー連携大学院プログラムの講義担当者が以下を認め、実施する。
      - a) オンデマンドでの受講を認める(講義内容に依存)。
      - b) 毎週の宿題、筆記試験等は他の受講生と同様に課す。
      - c) 質疑の時間を別途個別に設ける。

### 6-3 イノベーション博士候補(Innovative PhD Candidate)サーティフィケート授与要件(博士前期課程)

表2に示す科目の単位を取得しそれらの総合成績GPAが3.2/4以上と評価され、所定の英語力を有する必要がある。さらに、研究プロポーザル(研究課題の提案および研究計画)の審査に合格する必要がある。

表2 イノベーション博士候補サーティフィケート授与に必要な履修要件

	科目群	科目類	所要単位	
授業	“志”教育科目群	選択	≥2	≥4
		必修 現役社長の講話	2	
	教養基礎科目群	選択	≥4	
	専門科目群	選択 専門基礎科目類	≥12	≥14
		選択 専門展開科目類		
必修 地域学科目類		≥2		
実践	プロジェクト実践	必修 短期インターンシップ	≥1*	
	研究プロポーザル	必修 <a href="#">サーティフィケート研究プロポーザル</a>	-	
	英語	必修 TOEIC スコア 600 以上	-	
取得単位合計			≥30	

\*プロジェクト実践関連科目の単位付与は所属大学の規定による。

#### 6-4 イノベーション修士(Innovative Master)サーティフィケート授与要件(博士前期課程)

表3に示す科目の単位を取得しそれらの総合成績 GPA が 3.2/4 以上と評価され、所定の英語力を有する必要がある。

表3 イノベーション修士サーティフィケート授与に必要な履修要件

	科目群	科目類	所要単位	
授業	“志”教育科目群	選択	≥2	≥4
		必修 現役社長の講話	2	
	教養基礎科目群	選択	≥4	
	専門科目群	選択 専門基礎科目類	≥12	≥14
		選択 専門展開科目類		
必修 地域学科目類		≥2		
実践	プロジェクト実践	必修 短期インターンシップ	≥1*	
	英語	必修 TOEIC スコア 600 以上	-	
取得単位合計			≥30	

\*プロジェクト実践関連科目の単位付与は所属大学の規定による。

#### 6-5 イノベーション博士(Innovative PhD)サーティフィケート授与要件(博士後期課程)

表4に示す科目の単位を取得しそれらの総合成績 GPA が 3.2/4 以上と評価され、所定の英語力を有する必要がある。さらに、共同研究型サーティフィケート研究の成果をまとめた論文の審査に合格する必要がある。以上の条件を満たし、所属大学院の博士後期課程(博士課程)を修了した場合、イノベーション博士サーティフィケートが授与される。

表4 イノベーション博士サーティフィケート授与に必要な履修要件

	科目群	科目類	所要単位	
授業	“志”教育科目群	選択	≥2	≥4
		必修 現役社長の講話	2	
	教養応用科目群	選択	≥4	
	専門科目群	選択 専門展開科目類	≥8	≥10
		選択 専門特論科目類、他		
必修 地域学科目類		≥2		
実践	プロジェクト実践	必修 長期インターンシップ (サーティフィケート研究を実施)	-	
		必修 海外研修		
	産学連携共同研究	必修 サーティフィケート研究	-	
	英語	必修 TOEIC スコア 700 以上	-	
取得単位合計			≥20	

## 6-6 短期修了

所定の期間よりも早く、イノベーション博士候補サーティフィケート、イノベーション修士サーティフィケートまたはイノベーション博士サーティフィケート授与要件を満たした場合には、標準年限より短期間で該当するサーティフィケートが授与されるものとする。

## 7. サर्टィフィケート審査規程

### 7-1 審査に必要な条件

#### (1) イノベーション博士候補サーティフィケート

- ・イノベーション博士候補のサーティフィケート審査を受けるには、表2の所定の単位を総合成績 GPA3.2/4.0以上で取得している必要がある。また、実践科目における短期インターンシップを実施しており、スーパー連携大学院プログラム在籍中に取得した TOEIC 公式認定証の提出が必要である。
- ・さらに、博士後期課程に進学後に行うサーティフィケート研究の研究プロポーザル（課題提案と研究計画を含む）を提出する必要がある。

必要条件	備考
GPA が 3.2 以上であること	単位取得した表 2 の所定科目の総合成績
短期インターンシップを実施していること	実践科目
TOEIC 公式認定証を提出すること	スーパー連携大学院プログラム在籍中に取得したもの
サーティフィケート研究のプロポーザルの提出	博士後期課程進学後の研究課題提案と研究計画を含む

#### (2) イノベーション修士サーティフィケート

- ・イノベーション修士のサーティフィケート審査を受けるには、表3の所定の単位を総合成績 GPA3.2/4.0以上で取得している必要がある。また、実践科目における短期インターンシップを実施しており、スーパー連携大学院プログラム在籍中に取得した TOEIC 公式認定証の提出が必要である。

必要条件	備考
GPA が 3.2 以上であること	単位取得した表 3 の所定科目の総合成績
短期インターンシップを実施していること	実践科目
TOEIC 公式認定証を提出すること	スーパー連携大学院プログラム在籍中に取得したもの

#### (3) イノベーション博士サーティフィケート

- ・イノベーション博士のサーティフィケート審査を受けるには、表4の所定の単位を総合成績 GPA3.2/4.0以上で取得している必要がある。また、実践科目における長期インターンシップ（共同研究）および海外研修を実施しており、スーパー連携大学院プログラム在籍中に取得した TOEIC 公式認定証の提出が必要である。
- ・さらに、共同研究型サーティフィケート研究の成果をまとめた論文を提出する必要がある。

必要条件	備考
GPA が 3.2 以上であること	単位取得した表 4 の所定科目の総合成績
長期インターンシップ(共同研究)および海外研修を実施していること	実践科目
TOEIC 公式認定証を提出すること	スーパー連携大学院プログラム在籍中に取得したもの
共同研究型サーティフィケート研究の成果をまとめた論文の提出	

### 7-2 イノベーション博士候補サーティフィケートの審査

- (1) サर्टィフィケート審査は、提出された「研究プロポーザル」の内容審査および審査会における口頭試問により行う。
- (2) 審査委員は、受講生の主指導教員および副指導教員、他大学の教員および共同研究実施予定企業の研究者等から構成される。

### 7-3 イノベーション修士サーティフィケートの審査

- (1)サーティフィケート審査は、表3の所定の単位を総合成績 GPA3.2/4.0 以上と短期インターンシップの実施、スーパー連携大学院プログラム在籍中に取得した TOEIC 公式認定証により行う。
- (2)審査委員は、受講生の主指導教員および副指導教員、他大学の教員および共同研究実施予定企業の研究者等から構成される。

### 7-4 イノベーション博士サーティフィケートの審査

- (1)サーティフィケート審査は、提出された「サーティフィケート研究論文」の内容審査および審査会における口頭試問により行う。
- (2)審査委員は、受講生の主指導教員および副指導教員、他大学の教員および共同研究実施企業の研究者等から構成される。
- (3)サーティフィケート研究論文と所属大学へ提出する学位論文が同一の場合は、サーティフィケート審査を学位論文審査会の実施時期とほぼ同時期に行う。

## 8. 受講生支援

### 8-1 生活支援

受講生の生活支援全般は、基本的には受講生が所属する大学の担当部署が行う。スーパー連携大学院コンソーシアムでは、博士後期課程の受講生の経済的支援のために毎月5万円を奨学金として支給する。

また、企業奨学金などの公募に応募する場合やスーパー連携大学院としての推薦書作成などの支援を行う。

### 8-2 就職支援

スーパー連携大学院コンソーシアムに参加している企業等を含めて就職支援を行う。

## 9. スーパー連携大学院の運営組織

スーパー連携大学院は、会員となっている大学、企業および行政機関等から組織されたスーパー連携大学院コンソーシアムによって運営される。

会員の一覧はホームページ(<http://www.super-daigakuin.jp/memberlist.html>)をご参照ください。